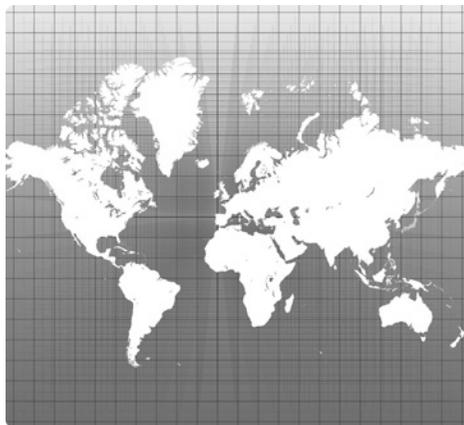


三菱UFJ ヘッジ付外国債券オープン

追加型投信／海外／債券



作成対象期間：2021年6月16日～2022年6月15日

第 10 期 決算日：2022年6月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、世界主要国（日本を除く）の公社債を実質的な主要投資対象とし、ベンチマークを中長期的に上回る投資成果をめざし、値上がり益の獲得および利子収益の確保をめざして運用を行います。また、為替変動リスクを回避するため、原則としてフルヘッジを行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第10期末（2022年6月15日）

基準価額	10,328円
純資産総額	39,198百万円
騰落率	-14.7%
分配金合計 ^(*)	0円

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

ファンドマネージャーのコメント

当期の運用に主眼をおいたポイントをご説明させていただきます。

■投資環境

- ・主要国（米国・ドイツ・英国）の長期金利は上昇しました。

■運用のポイント

- ・F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行いました。
- ・クオンツモデルを活用することにより主要国の各債券市場を分析し、運用戦略を構築しました。
- ・カンントリーアロケーションは、米国を2021年11月を除き、概ね中立からアンダーウェイトとした一方、ユーロ圏を2022年1月、3月を除き、概ね中立からオーバーウェイトとしました。英国は2021年11月を除き、中立からオーバーウェイトとしました。カナダは2022年1月を除き、中立からアンダーウェイトとしました。豪州は2021年7月から11月にかけて中立からアンダーウェイトとし、その後は中立からオーバーウェイトとしました。スウェーデンは、期を通じて中立からアンダーウェイトとしました。
- ・残存期間構成は、2021年10月から11月、2022年3月、5月に米国とユーロ圏の長期・超長期ゾーンをアンダーウェイトとし、その他の期間では長期・超長期ゾーンを中立からオーバーウェイトとしました。英国は、2021年11月に長期・超長期ゾーンをアンダーウェイトとし、その他の期間では長期・超長期ゾーンを中立からオーバーウェイトとしました。
- ・ユーロ圏内国別配分は、2022年3月にかけて、ドイツ・フランスを概ね中立からアンダーウェイト、スペイン・イタリアを概ね中立からオーバーウェイトでコントロールしました。その後は、概ね中立としました。

- ・為替変動の影響を回避するため、為替はフルヘッジを行いました。

- ・前記の運用を行った結果、ファンドの騰落率は、14.7%の下落となり、ベンチマークの騰落率（-13.5%）を1.2%下回りました。
- ・カンントリーアロケーションで、2022年5月に米国をアンダーウェイト・ユーロ圏をオーバーウェイトとしたこと、残存期間構成で2022年5月に米国の長期・超長期ゾーンをアンダーウェイトとしたこと、ユーロ圏国別戦略で2022年2月にイタリア、スペインをオーバーウェイトとしたことなどがマイナス要因となりました。

■今後の運用方針

- ・世界主要国の公社債（日本を除く）を主要投資対象とし、ベンチマークを中長期的に上回ることを目標として、引き続き投資信託財産の成長をめざして運用を行います。
- ・運用にあたっては、クオンツモデルを活用することにより主要国の各債券市場を分析し、運用戦略を構築します。また、為替変動リスクを回避するため、原則として、フルヘッジを行う方針です。



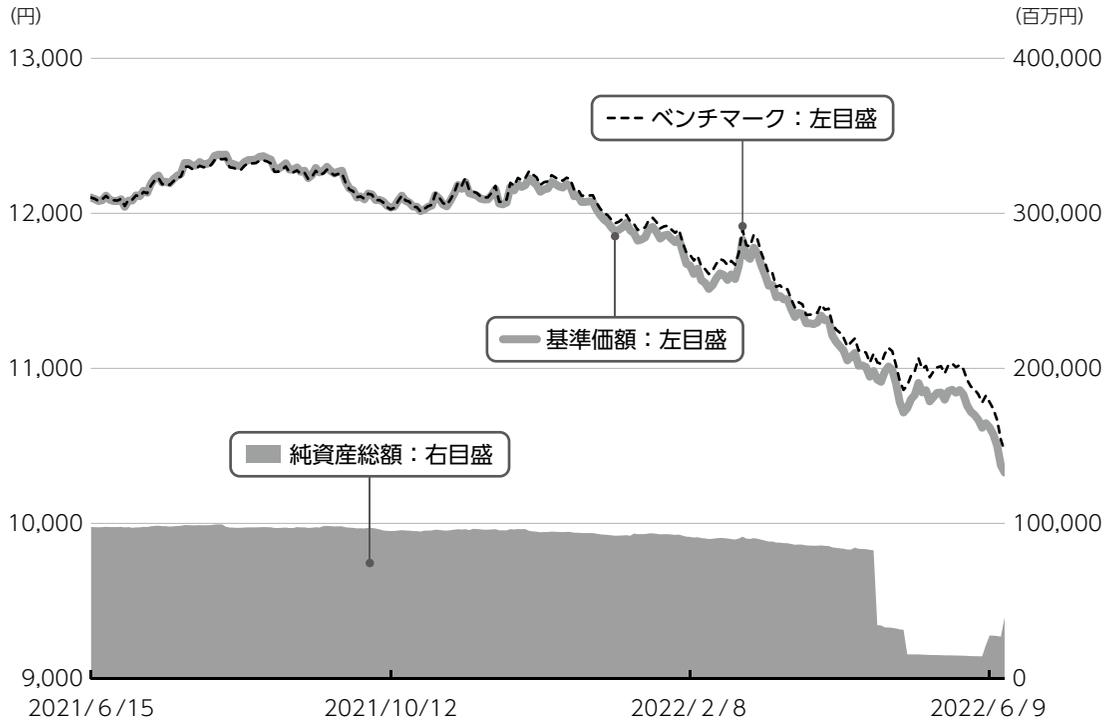
債券運用部
ファンドマネージャー
金 永眞

運用経過

第10期：2021年6月16日～2022年6月15日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第10期首	12,101円
第10期末	10,328円
既払分配金	0円
騰落率	-14.7%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ14.7%の下落となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-13.5%）を1.2%下回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

債券利子収入を享受したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

組入主要国の長期金利が上昇したことなどが基準価額の下落要因となりました。

※ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標）は、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2021年6月16日～2022年6月15日

1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	45	0.385	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(35)	(0.297)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(5)	(0.044)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(5)	(0.044)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	3	0.025	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.021)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(0)	(0.004)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	48	0.410	

期中の平均基準価額は、11,790円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

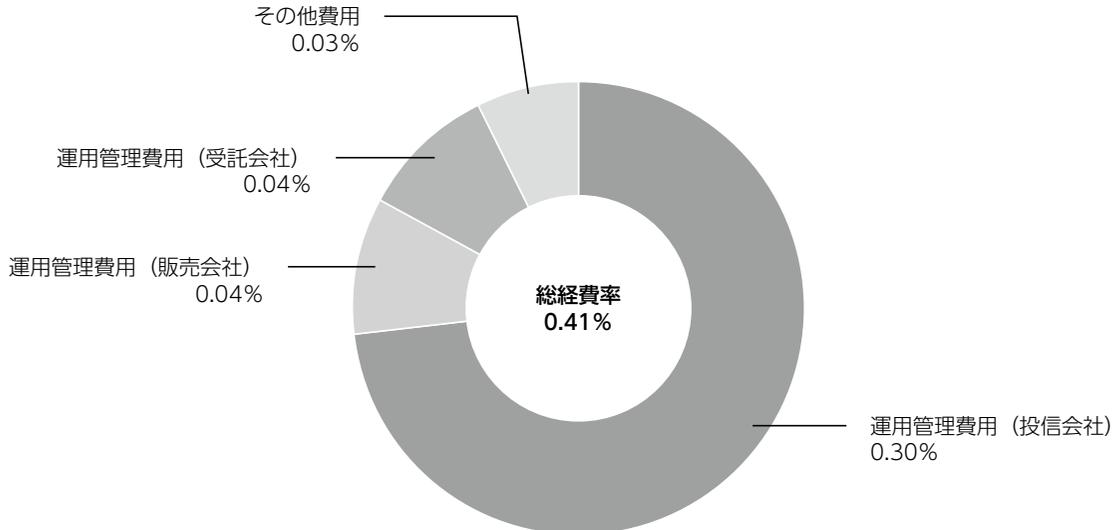
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.41%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

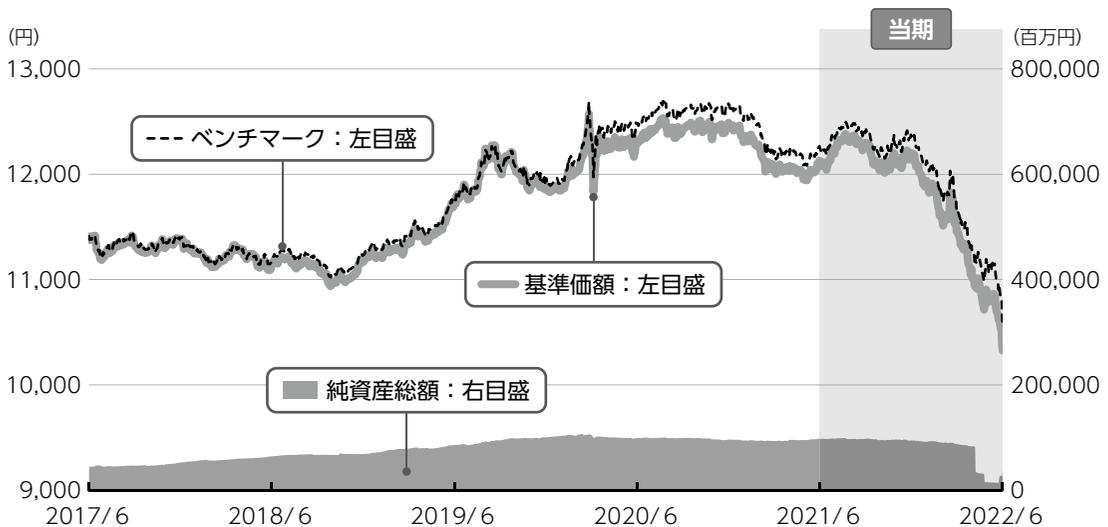
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2017年6月15日～2022年6月15日

最近5年間の基準価額等の推移について



※ベンチマークは、2017年6月15日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
 ※海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

最近5年間の年間騰落率

	2017/6/15 期初	2018/6/15 決算日	2019/6/17 決算日	2020/6/15 決算日	2021/6/15 決算日	2022/6/15 決算日
基準価額 (円)	11,410	11,142	11,729	12,322	12,101	10,328
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	-2.3	5.3	5.1	-1.8	-14.7
ベンチマーク騰落率 (%)	—	-1.9	5.1	6.1	-1.9	-13.5
純資産総額 (百万円)	44,645	64,504	86,156	99,079	97,598	39,198

ベンチマークは、F T S E 世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジ・円ベース) です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

第10期：2021年6月16日～2022年6月15日

投資環境について

▶ 債券市況

米独長期金利は上昇しました。

グローバルな供給制約や資源価格上昇により主要先進国でインフレ加速がみられ

たことにより、主要中央銀行が利上げを含む金融政策の早期正常化を進めたことなどが、米独長期金利の上昇要因となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UFJ ヘッジ付外国債券オープン

主要投資対象であるMUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド受益証券への投資を通じて世界主要国（日本を除く）の公社債を組み入れた運用を行いました。

ウェイトとしました。カナダは2022年1月を除き、中立からアンダーウェイトとしました。豪州は2021年7月から11月にかけて中立からアンダーウェイトとし、その後は中立からオーバーウェイトとしました。スウェーデンは、期を通じて中立からアンダーウェイトとしました。

▶ MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド

世界主要国の公社債（日本を除く）を主要投資対象とし、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）を中長期的に上回る投資成果をめざしました。

クオンツモデルを活用することにより主要国の各債券市場を分析し、運用戦略を構築しました。

カントリーアロケーションは、米国を2021年11月を除き、概ね中立からアンダーウェイトとした一方、ユーロ圏を2022年1月、3月を除き、概ね中立からオーバーウェイトとしました。英国は2021年11月を除き、中立からオーバー

残存期間構成は、2021年10月から11月、2022年3月、5月に米国とユーロ圏の長期・超長期ゾーンをアンダーウェイトとし、その他の期間では長期・超長期ゾーンを中立からオーバーウェイトとしました。英国は、2021年11月に長期・超長期ゾーンをアンダーウェイトとし、その他の期間では長期・超長期ゾーンを中立からオーバーウェイトとしました。

ユーロ圏内国別配分は、2022年3月にかけて、ドイツ・フランスを概ね中立からアンダーウェイト、スペイン・イタリアを概ね中立からオーバーウェイトでコントロールしました。その後は、概ね中立としました。

為替変動の影響を回避するため、フルヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

▶ 三菱UFJ ヘッジ付外国債券オープン

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-13.5%）を1.2%下回りました。

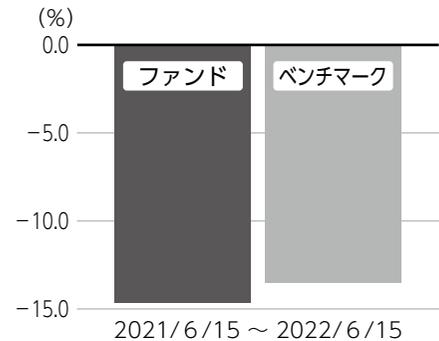
（マイナス要因）

カントリーアロケーションにおいて、2022年5月に米国をアンダーウェイト、ユーロ圏をオーバーウェイトとしたこと。

残存期間構成において、2022年5月に、米国の長期・超長期ゾーンをアンダーウェイトとしたこと。

ユーロ圏国別戦略において、2022年2月にイタリア、スペインをオーバーウェイトとしたこと。

基準価額（ベビーファンド）とベンチマークの対比（騰落率）



▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第10期 2021年6月16日～2022年6月15日
当期分配金（対基準価額比率）	-（-%）
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,428

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

▶ **三菱UFJ ヘッジ付外国債券オープン MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド** 受益証券の組入比率を高位とする方針です。

▶ **MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド** 世界主要国の公社債（日本を除く）を主要投資対象とし、ベンチマークを中長期

的に上回ることを目標として、引き続き投資信託財産の成長をめざして運用を行います。

運用にあたっては、クオンツモデルを活用することにより主要国の各債券市場を分析し、運用戦略を構築します。また、為替変動リスクを回避するため、原則として、フルヘッジを行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

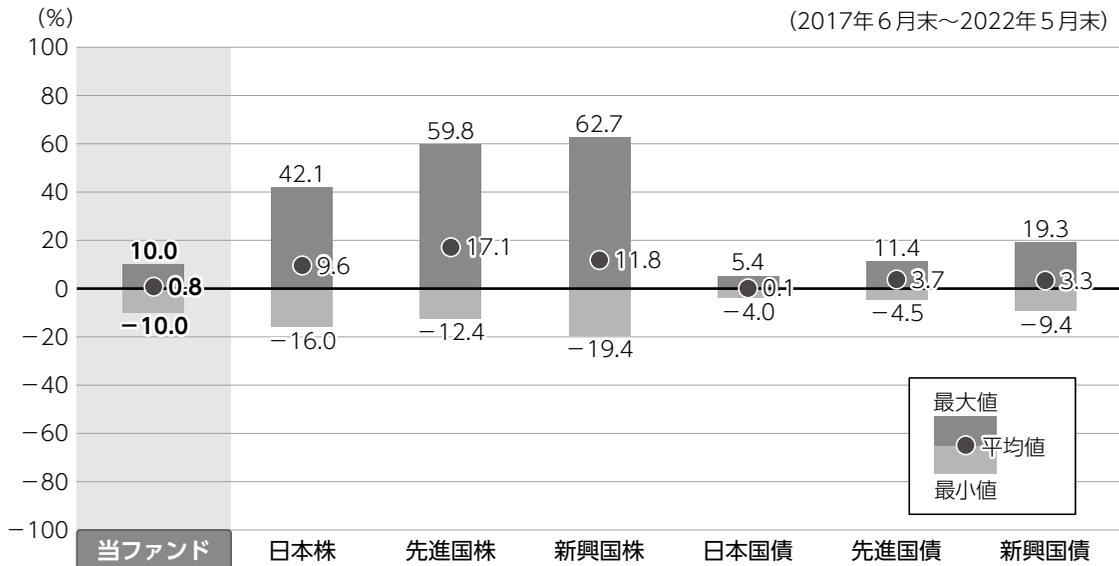
- ・「FTSE世界国債インデックス」について、2021年10月末より中国国債の組み入れに伴い、当該指数を参照等する当ファンドにおいて、新たに中国国債の組み入れを適宜開始します。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2027年6月15日まで（2012年7月20日設定）
運用方針	MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界主要国（日本を除く）の公社債に実質的な投資を行い、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）を中長期的に上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。
主要投資対象	<p>■当ファンド</p> <p>MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、先進国の債券に直接投資することがあります。</p> <p>■MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド</p> <p>世界主要国の公社債（日本を除く）を主要投資対象とします。</p>
運用方法	世界主要国（日本を除く）の公社債を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得および利子収益の確保をめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）</p> </div>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2017年6月から2022年5月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2022年6月15日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第10期末 2022年6月15日
MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド	99.7%

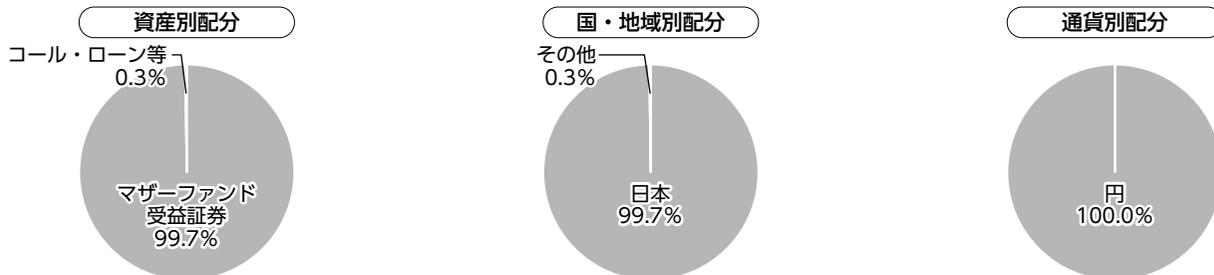
※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第10期末 2022年6月15日
純資産総額 (円)	39,198,759,392
受益権口数 (口)	37,953,355,515
1万口当たり基準価額 (円)	10,328

※当期中において追加設定元本は36,872,914,476円
同解約元本は 79,573,125,018円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余剰資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

890015

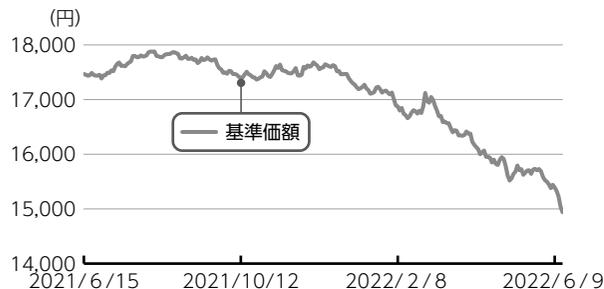
2022年6月15日現在

組入上位ファンドの概要

▶ MUAM ヘッジ付外国債券オープンマザーファンド

基準価額の推移

2021年6月15日～2022年6月15日



1万口当たりの費用明細

2021年6月16日～2022年6月15日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) その他費用	4	0.022
（保管費用）	(4)	(0.022)
（その他）	(0)	(0.000)
合計	4	0.022

期中の平均基準価額は、17,051円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：182銘柄)

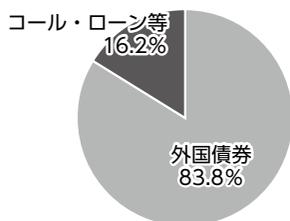
	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	0.875 T-NOTE 240131	債券	アメリカ	国債	3.6
2	1.25 T-NOTE 280331	債券	アメリカ	国債	3.0
3	0.75 T-NOTE 260831	債券	アメリカ	国債	2.8
4	2.25 T-NOTE 240331	債券	アメリカ	国債	2.6
5	0.25 T-NOTE 250731	債券	アメリカ	国債	2.6
6	1.125 T-NOTE 250115	債券	アメリカ	国債	2.4
7	0.625 T-NOTE 300515	債券	アメリカ	国債	2.2
8	0.375 T-NOTE 240915	債券	アメリカ	国債	2.0
9	2.375 T-BOND 420215	債券	アメリカ	国債	1.8
10	0.125 T-NOTE 230831	債券	アメリカ	国債	1.8

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 ※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

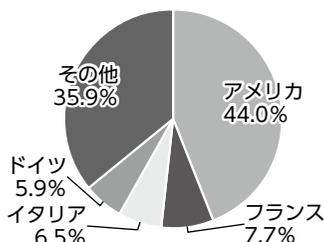
種別構成等

資産別配分



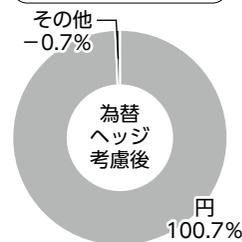
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

国・地域別配分



※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先としてのファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

通貨別配分



指数に関して

▶ ファンドのベンチマークである『FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）』について

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

● 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

● JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信